

2026年度 九州大学大学院統合新領域学府

ライブラリーサイエンス専攻修士課程入学者選抜試験

(1次募集)

小論文問題冊子

試験時間 120分

注意事項

1. 試験開始の合図のあるまで、この問題冊子は開いてはいけません。
2. 試験開始後ただちに、「小論文」問題（1枚）、解答用紙（5枚）、下書き用紙（4枚）が揃っていることを確認してください。
3. 解答用紙のすべて（5枚）に受験番号・氏名を記入してください。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入してください。ホッチキスは外さないでください。
5. 配布された解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
6. 下書きをしたい場合は、下書き用紙を利用するか、問題冊子の余白（裏面等）を利用してください。
7. 試験終了後、問題冊子、下書き用紙は回収します。

以下の文章は、本学の統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻の年報(2015/2016)において、専攻設置の背景を説明した文章である。この背景には、2011年の専攻設置当時の情報にかかわる社会的諸問題がいくつかあげられている(ただし、体裁を一部改めた箇所がある)。

この文章を参考に、以下のことに答えなさい。①ここで取り上げられている諸問題のうち、現在も続いていると考えるものを取り上げ、それが解消されつつあるのか、またはより大きくなっているのか、その理由とともに述べなさい。また、②これ以降に、新しく現れた情報にかかわる諸問題を取り上げ、どのように問題なのか、それらを解決するためにはどのような研究が必要と考えるかを述べなさい。①と②を合わせて、1200字程度とするが、①か②のみを回答してもよい。

=====

1. 背景：データの爆発的な増加に対する多面的アプローチの必要性

ビッグデータの出現：近年の ICT 環境の発展，特にインターネットや検索・推薦等の情報サービス／センサー技術の発達により，いわゆるビッグデータと呼ばれる大規模データ群が出現し，それらのデータ解析が盛んに行われています。しかし，ビッグデータの解析には情報技術的な観点だけでなく，プライバシー保護や法令，データ管理・継承といった多様な観点が必要となります。一方，データの管理や継承を扱ってきた図書館情報学やアーカイブズ学等の学問分野の枠組みも，現在のめまぐるしい変化に対応しきれていません。

オープンサイエンス運動の高まり：データのオープン化とそれらを用いた新たな科学技術の創出（いわゆるオープンサイエンス）は日本だけでなく世界における課題になっています。すなわち，異分野間のデータを結びつけ，従来の分野にはない視点に基づく研究開発が求められているのです。そのためにはデータベース等の基盤整備だけでなく，データの流通手法の整備や，異なるデータを結びつけ，価値を作り出せる人材が必要です。

ユーザー視点に立つ情報提示：データの爆発的な増加により，必要な情報を効率的に入手したいというユーザーの要求に応えることは難しくなっています。従来扱ってきた分類・構造化されたデータだけでなく，構造化されていない大量のデータとユーザーを結びつけるための仕組みが必要です。図書，文献，文書，記録などの資料（情報）の高度な組織・構造化にもとづく，あらたな情報提供法の実現とサービスが求められます。

データ管理専門職の必要性：多様かつ大量のデータを活用するためには，データを解析する人材だけでなく，データ個々の情報の性格を見極め，適切に整理・維持・提供できる人材が必要です。さまざまな領域について一定度の専門的知識を持つ「情報専門職」，すなわちアーキビストやサブジェクトライブラリアンなどの専門職実務家の本格的な養成が求められます。

法的問題：電子媒体や WEB 上での情報の生成，発信，利用においては，法制，行政等の面でも，多くの課題を突き付けられています。著作権や情報公開，個人情報保護等の諸問題の前提には，適切な情報の管理，利用が不可欠であり，両者は一体として解決していくことが求められます。

=====